

1 この科目の構成について

教科	国語	科目	古典探究	単位	2 単位
対象コース	一貫・進学	コース	対象クラス	2 年	1組・2組
使用教科書	高等学校 古典探究 古文編（第一学習社） 高等学校 古典探究 漢文編（第一学習社）				
使用副教材	新版 理解を深める核心古文単語351（尚文出版） ダブルマスター古典文法＋漢文句形（第一学習社） 入試につながる古文（ランズ） 入試につながる漢文（ランズ）				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

古典探究では以下の3つを目標としています。

- ① 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めること
- ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。
- ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うこと。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。ノートとは正答を記すためのものではなく、正答に至るまでの思考のプロセスを書き付けるためのものです。問題文（口頭での質問も含む）の意図を読み取り、思考し、答えを表現する「手順」を授業で体得してください。

(2) 家庭

家庭学習では、授業内容の振り返りをしてください。知識を得るのが授業であり、その知識を定着させるのが家庭学習です。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ア) ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)イ) ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)ウ) ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(1)エ)	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(ア) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(イ) ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。(ウ) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。(エ) ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(オ) ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(カ) ・関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(キ) ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。(ク)	積極的に言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。
評価方法	・定期考査 ・平常課題	・定期考査 ・平常課題	・授業内における取り組み ・平常課題の取り組み ・長期休暇課題の取り組み

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	今昔物語集 「小式部内侍が大江山の歌の事」 今物語 「やさし蔵人」 	平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、平中の色好みに端を発する滑稽話のおもしろさを味わいます。また説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。文法事項としては、一年次の復習を兼ねて、動詞の活用、助動詞、基本的な敬語、係り結びなどを確認します。	●	●	●
	5	故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深めます。また、故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉えながら、書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価します。一年次の復習として、再読文字などの訓読の仕方を確認します。	●	●	●
		徒然草 「世に語り伝ふること」「あだし野の露消ゆるときなく」	作者の鋭い観察眼を通して綴られた、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深めます。随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。文法については、助動詞を中心とした接続の知識を習得します。	●	●	●
		方丈記 「ゆく川の流れ」 	無常観を基調とした隠者文学を味わいます。和語に漢語を交えた和漢混交文で、対句や比喻を多用した格調の高い文章であることを確認します。文法では、助動詞等の識別の知識を習得します。	●	●	●
	6	古代の史話 「鶏鳴狗盗」	史伝という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。また、史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養います。	●	●	●
		伊勢物語 「初冠」	物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わいます。また、歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。	●	●	●
	7					

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	8	竹取物語 「かぐや姫の昇天」	平安初期に書かれた作り物語の場面設定や心理描写を読み味わい、その伝奇性を生んだ古代人の想像力に触れます。伝奇的作り物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。発表したりする。また、平安初期の作り物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えます。	●	●	●
	9	名家の文章 「雑説」	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げます。漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉え、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養います。また、絶句と律詩の名作を読み、唐詩の表現の深さを味わいます。人間・社会・自然に対する作者の見方を的確にとらえ、自らの感性も磨きます。1	●	●	●
	10	蜻蛉日記 「うつろひたる菊」	女流作家による日記文学に親しみ、優れたものの見方や言語感覚に触れます。基本的な古文単語の意味や助動詞の用例などに留意しながら、丁寧に口語訳する力を養います。また、和歌が作品の解釈に奥行きを与えていることを読み味わい、作品の主題を理解します。	●	●	●
	11					
	12	項羽と劉邦 「鴻門の会」「四面楚歌」	劇的な描写、巧みな感情表現、優れた構成などを確認し、「史記」の文章が文学的にも味わい深いものであることを理解します。句法は、疑問・反語・使役・仮定・限定形を学習します。	●	●	●
3	1	源氏物語 「光る君」	平安時代の代表的な長編物語であり、日本古典文学の最高峰ともいえる本作品を通じて、優れた古典文学を読むことの喜びを体験します。文脈の中で会話主や省略された主語を正確に把握できるようにします。	●	●	●
	2					

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	3	中国の詩 「絶句」「峨眉山月記」「春夜」「除夜寄弟妹」 諸家の思想 老子・孟子・莊子 道徳	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げます。漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉え、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養います。また、絶句と律詩の名作を読み、唐詩の表現の深さを味わいます。人間・社会・自然に対する作者の見方を的確にとらえ、自らの感性も磨きます。1 儒家の代表的な書物である「論語」や「孟子」について学び、その思想について理解を深めます。他にも古代中国の思想について触れ、自身の生き方を考える契機とします。また、句法と用字の知識を用いて、本文の正しい解釈をします。	●	●	●
				●	●	●

1 この科目の構成について

教科	国語	科目	古典探究		単位	2 単位
対象コース	総合・美術	コース	対象クラス	2 年	3組～6組	
使用教科書	高等学校 標準古典探究（第一学習社）					
使用副教材	新版 理解を深める核心古文単語351（尚文出版） ダブルマスター古典文法＋漢文句形（第一学習社） 進研WINSTEP Core 国語2 古典編〔新課程版〕（ランズ）					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 古典探究では以下の3つを目標としています。 ① 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めること ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うこと。	学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。ノートとは正答を記すためのものではなく、正答に至るまでの思考のプロセスを書き付けるためのものです。問題文（口頭での質問も含む）の意図を読み取り、思考し、答えを表現する「手順」を授業で体得してください。 (2) 家庭 家庭学習では、授業内容の振り返りをしてください。知識を得るのが授業であり、その知識を定着させるのが家庭学習です。
---	--

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 （内容のまとまりごと）	・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ア） ・ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。（(1)イ） ・ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（(1)ウ） ・ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。（(1)エ）	・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。（ア） ・ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。（イ） ・ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。（ウ） ・ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。（エ） ・ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。（オ） ・ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。（カ） ・ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。（キ） ・ 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。（ク）	積極的に言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。
評価方法	・ 定期考査 ・ 平常課題	・ 定期考査 ・ 平常課題	・ 授業内における取り組み ・ 平常課題の取り組み ・ 長期休暇課題の取り組み

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	今昔物語集 「小式部内侍が大江山の歌の事」 	平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、平中の色好みに端を発する滑稽話のおもしろさを味わいます。また説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。文法事項としては、一年次の復習を兼ねて、動詞の活用、助動詞、基本的な敬語、係り結びなどを確認します。	●	●	●
	5	故事・寓話 「画竜点睛」「推敲」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深めます。また、故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉えながら、書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価します。一年次の復習として、再読文字などの訓読の仕方を確認します。	●	●	●
		徒然草 「奥山に、猫またといふものありて」「相模守時頼の母は」	作者の鋭い観察眼を通して綴られた、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深めます。随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。文法については、助動詞を中心とした接続の知識を習得します。	●	●	●
		方丈記 「ゆく川の流れ」 	無常観を基調とした隠者文学を味わいます。和語に漢語を交えた和漢混交文で、対句や比喻を多用した格調の高い文章であることを確認します。文法では、助動詞等の識別の知識を習得します。	●	●	●
	7	三国志の世界 死諸葛走生仲達（十八史略）	諸葛亮と司馬懿の心理戦を味わうとともに、二人の人物像への理解を深めます。史伝という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。また、史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養います。	●	●	●
		伊勢物語 「初冠」	物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わいます。また、歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	8	竹取物語 「かぐや姫の昇天」	平安初期に書かれた作り物語の場面設定や心理描写を読み味わい、その伝奇性を生んだ古代人の想像力に触れます。伝奇的作り物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えます。発表したりする。また、平安初期の作り物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えます。	●	●	●
	9	中国の詩 「絶句」「峨眉山月記」「春夜」「除夜寄弟妹」	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げます。漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉え、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養います。また、絶句と律詩の名作を読み、唐詩の表現の深さを味わいます。人間・社会・自然に対する作者の見方を的確にとらえ、自らの感性も磨きます。1	●	●	●
	10	沙石集 「児の知恵」 「いみじき成敗」	庶民教化を目的とした中世の説話を読んで、人のどういう行為を戒めようとしたのかを読み解きます。今までの学習を生かして説話を読み、庶民教化という編集目的に注意しながら内容を捉え、積極的に自分の考えを広げたり深めたりします。また、内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる助詞の用法について積極的に理解して、口語訳したり説明したりすることを目指します。	●	●	●
	11					
	12	不思議な世界 「売鬼」（搜神記）	一般的なイメージとは異なる幽霊についての話を読み、古代中国の人々の超自然的な存在に対する見方に触れます。一般的なイメージとは異なる幽霊の特徴を捉えるとともに、宋定伯が幽霊を売ることができた理由を考えます。	●	●	●
3	1	源氏物語 「光る君」	平安時代の代表的な長編物語であり、日本古典文学の最高峰ともいえる本作品を通じて、優れた古典文学を読むことの喜びを体験します。文脈の中で会話主や省略された主語を正確に把握できるようにします。	●	●	●
	2					

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	3	諸家の思想 老子・孟子・荘子 道徳	儒家の代表的な書物である「論語」や「孟子」について学び、その思想について理解を深めます。他にも古代中国の思想について触れ、自身の生き方を考える契機とします。また、句法と用字の知識を用いて、本文の正しい解釈をします。	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	国語	科目	文学国語	単位	2 単位
対象コース	一貫・進学	コース	対象クラス	2 年	1組・2組
使用教科書	文学国語（東京書籍）				
使用副教材	イラストとネットワーキングで覚える現代文単語（いづな書店） 入試につながる現代文（ランズ）				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 文学国語では以下の3つを目標としています。 ① 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めること ② 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うこと。	学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。ノートとは正答を記すためのものではなく、正答に至るまでの思考のプロセスを書き付けるためのものです。問題文（口頭での質問も含む）の意図を読み取り、思考し、答えを表現する「手順」を授業で体得してください。 (2) 家庭 予習で次に扱う部分を読み、内容理解のための語句の意味調べをしてください。授業でそれを確認します。復習は、学んだ事項の整理と理解にあててください。
--	--

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとまりごと)	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。(1)エ ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(2)ア ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)イ	・「書くこと」において、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。(ア) ・「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。(イ) ・「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。(ウ) ・「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。(エ) ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(ア) ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(イ) ・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。(ウ) ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(エ) ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。(オ) ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(カ) ・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(キ)	積極的に言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養おうとしている。
評価方法	・定期考査 ・平常課題	・定期考査 ・平常課題	・授業内における取り組み ・平常課題の取り組み ・長期休暇課題の取り組み

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	『山月記』 中島敦  	登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について理解を深めます。	●	●	●
	5	『言葉を生きる』 若松英輔	筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深めます。	●	●	●
	6	『山椒魚』 井伏鱒二	登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について理解を深めます。	●	●	●
	7	『永訣の朝』 宮沢 賢治 	表現された内容を読み取り、描かれた行動や言動から、「わたくし」の妹に対する思いを理解します。	●	●	●
	8	『モードの変遷』 穂村弘	具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりについて理解します。	●	●	●
	9					
	10	『こころ』 夏目漱石  	人間の関係性と心情を捉え、人の心のありようについて理解を深めます。	●	●	●
	11	『文学の未来』 小野正嗣	本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。	●	●	●
	12	『鞆』 安部公房	寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深めます。	●	●	●
	1	『国語から旅立って』 温又柔	筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深めます。	●	●	●
	2	『檸檬』 梶井基次郎  	登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について理解を深めます。	●	●	●
	3	『クレールという女』 須賀敦子	長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考えを深めます。	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	国語	科目	文学国語	単位	3 単位
対象コース	総合	コース	対象クラス	2 年	3・4・5組
使用教科書	文学国語（東京書籍）				
使用副教材	WINSTEP Core 国語 2 論理的文章・実用的文章				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 文学国語では以下の3つを目標としています。 ① 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めること ② 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うこと。	学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。ノートとは正答を記すためのものではなく、正答に至るまでの思考のプロセスを書き付けるためのものです。問題文（口頭での質問も含む）の意図を読み取り、思考し、答えを表現する「手順」を授業で体得してください。 (2) 家庭 予習で次に扱う部分を読み、内容理解のための語句の意味調べをしてください。授業でそれを確認します。復習は、学んだ事項の整理と理解にあててください。
--	--

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとまりごと)	- 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア - 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ - 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ - 文学的な文章における文体的特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。(1)エ - 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(2)ア - 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)イ	「書くこと」において、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。(ア) 「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。(イ) 「書くこと」において、文体的特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。(ウ) 「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。(エ) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(ア) 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(イ) 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体的特徴や効果について考察している。(ウ) 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(エ) 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。(オ) 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(カ) 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(キ)	積極的に言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養おうとしている。
評価方法	- 定期考査 - 平常課題	- 定期考査 - 平常課題	- 授業内における取り組み - 平常課題の取り組み - 長期休暇課題の取り組み

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	『山月記』 中島敦 	登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について理解を深めます。	●	●	●
	5	『言葉を生きる』 若松英輔	筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深めます。	●	●	●
	6	『山椒魚』 井伏鱒二	登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について理解を深めます。	●	●	●
	7	『永訣の朝』 宮沢 賢治 	表現された内容を読み取り、描かれた行動や言動から、「わたくし」の妹に対する思いを理解します。	●	●	●
	8	『モードの変遷』 穂村弘	具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりについて理解します。	●	●	●
	9					
	10	『こころ』 夏目漱石 	人間の関係性と心情を捉え、人の心のありようについて理解を深めます。	●	●	●
	11	『文学の未来』 小野正嗣	本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。	●	●	●
	12	『艶』 安部公房	寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深めます。	●	●	●
	1	『国語から旅立って』 温又柔	筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深めます。	●	●	●
	2	『檸檬』 梶井基次郎 	登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について理解を深めます。	●	●	●
	3	『クレールという女』 須賀敦子	長い時間をかけて深まっていった筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考えを深めます。	●	●	●